

中学生の「税についての作文」

大木町長賞

社会の基盤を支える税の役割

大木町立大木中学校

三年 堤

彩珈音

増税。私はこの言葉をニュースで何度も聞いてきた。そしてそのニュースが流れる度、国民は「税が高い」「また税が上がるのか」というような批判的な発言をしていた。私はこの発言を聞き、税は国民を苦しめるものだと考えるようになった。しかし、ある出来事により私の税に対する考え方は大きく変わった。

その出来事というのは学校で税金の学習をしたことだ。学校では、税金とは国や都道府県、市町村などが公共の仕事をするために人々から集めるお金のことで、国民には税金を納める義務があると習った。私はこの授業を受けて税金は国民のため、社会のためにあり国民にとって良い影響をもたらすものだと感じた。しかしながら、現時点では税金に対して良いイメージを持っている人は少ないように感じる。その理由の一つとして国民が税金について学ぶ機会が少ないことが挙げられるのではないかと私は思う。そこで私は、税金についてもっと深く理解しようと家で税金の事を調べてみた。

すると、税金は社会保障関係費や国債費、地方交付税交付金に多く使われていることが分かった。大まかに言えば社会保障関係費は医療や福祉、国債費は国の借金の元本の返済、地方交付税交付金は地方の福祉費や土木費等に関係している。

これらは全て私達の生活に欠かせないものだ。そんな税がもし無くなったらどうなるか貴方は知っているだろうか。以前の私だったら負担が少なくなり、生活が豊かになっていくと考えただろう。しかし、それは事実とは異なる。税金が無くなると社会保障を受けることが不可能になるほか、経済的な格差の拡大や社会的な不平等が深刻化する可能性がある。そして私達学生が毎日通っている学校でも大きな変化が見られる。例えば、教育資金の減少や教育支援の縮小、学習環境の質の低下等が挙げられる。このことから、税金が無くなると国民の生活に大きな影響を与える事が分かるだろう。そして、私達が税金のおかげでどれほど恩恵を受けてきたのか、深く実感出来るはずだ。

これらのことから税金は私達の生活の質を高め、安心して暮らせる社会を築くために大切なものであり、これからも大事にしなければならないと私は考える。しかしその反面、国民には税を納めることが義務付けられているため、負担に思うことも多いと思う。そう思うことは自由だが、税金によって私達の生活が支えられていることは忘れないで欲しい。そうすることで感謝や責任感が生まれ、より良い社会づくりに繋がっていくと私は思う。